

令和4年度特別養護老人ホーム梨花の里事業報告書

1 運営方針について

「自立した生活、尊厳のある暮らしを守る」ために、各セクションでの定期的な会議を開催し日々のケアの検討を行った。検討結果に基づき、入居者一人ひとりの「満足できる生活」を実践することに努めた。

2 事業目標評価について

3カ年目標の『感染症対策の強化』、『災害を想定した業務継続の取り組み』、『デジタル化による業務効率化』及び、『科学的介護』を推進した。

(1) 生活援助係（介護）の評価

ノーリフティングケアについては対象者を絞って、吊り下げリフトを活用した。使用方法や評価について、機能訓練指導員、生活課長を中心にサービス担当者会議、リーダー会議の際、及び現場において実施し、PDCAサイクルに基づき見直しを図った。結果として、各階で使用することが定着し、リフトの増台の希望も出ている。職員から、入居者の移動に関するメリットが多くあることや、職員も自身の身体の負担軽減目的で積極的に使用したとの声が聞かれた。

ICT・IOTについては、タブレット端末を用い、写真データや記録ソフト「ほのぼの」のデータを各種会議やフロアミーティング、申し送り時に活用し業務の効率化に努めた。成果としては、会議時間が短縮され、また、正確なデータに基づいた身体状況の把握、皮膚トラブルの早期改善や食事摂取量の改善、初期段階での体調変化の把握、転倒予防や防止のための早期対策実施といったことが挙げられ、『より確実な情報共有』『スピーディで効率的な介護支援の提供』へと繋がった。

コロナ禍ではあったが、認知症が進み食事がほとんど摂れなくなった入居者への支援について、家族と協力し定期的な自宅への外出を行い、家族との時間を作ることにより食事が回復し、元気を取り戻されたことはとても大きい成果であった。

(2) 生活援助係（医務）の評価

新型コロナウイルス感染症について、未知な部分が多くその都度情報に基づき協議を行い、感染症対策委員会において周知、対応の見直しを行った。また、毎月のシュミレーションでは介護職員への的確な指導を行うことで、感染対策は改善出来た。

9月に入居者の感染者が1名確認されたが、シュミレーションの効果により新たな陽性者を出さず、10日間で終息を迎えた。

職員が陽性者となったり、家族勤務先や家族内で陽性となった事例も多々あったが、把握した時点で『発生に準じた感染対応』を即座に実施し、これらの関係で入居者の陽性者は出なかった。

(3) 給食調理係の評価

調理職員同士の連携、介護職員との情報共有に注力した。具体的には、部署内での情報共有方法の工夫、会議は建設的なものとし、入居者の食に対するニーズを介護職員と細やかな部分まで都度確認しディスカッションした。1年間通して、調理職員、誰もが様々な食事のニーズに対応できる組織作りを行った。成果として、食事量が増え、嚥下機能の維持が図られ、また活気が出たという事例も多々あった。

感染症発生を想定したシュミレーションを毎月行い、9月にコロナ陽性者が発生した際はその経験が生き、隔離状態となったフロアへの食事提供が円滑に行え、保健所の指導の際にお褒めをいただいた。

(4) 生活援助係（介護支援専門員）の評価

昨年度に引き続き、入居者、ご家族の思いを大切に各職種と連携を図り、ケアプランの立案に努めた。更に今年度は特に、モニタリングに始まりプランの見直しといったPDCAサイクルを意識し、入居者の満足度を更に高めるプラン作成にこだわり、確実な実施へと繋げた。

(5) 生活援助係（機能訓練指導員）の評価

入居者が楽しく、目的を持って生活リハビリ・機能訓練ができるよう、介護職員と共同して実施した。ノーリフティングケアについては、介護職員と共にノーリフティングケア協会の実施する研修に参加し、その後は研修参加した者と連携し、他職員へ指導に当たった。福祉機器・用具の使用については、必要な入居者に集中して使用し、筋緊張の緩和等の効果が見られた。

(6) 生活相談員の評価

リスクマネジメントを意識し、事前対応、問題発生時の早期対応、その後のケアサポートに精力的に取り組んだ。コロナ禍でのショートステイについて、町内及び他町からの緊急的なショートステイも事前の聞き取りや抗原検査の実施等を行い積極的に受け入れ、地域福祉の一助となるように努めた。

家族はもとより、医療機関などの関係機関からの入所相談について親身に対応し、本入所に繋がった事例も多くあった。

(7) 総務係の評価

外来者の感染症対策として、問診票による来訪者の健康状態のチェック、非接触体表面測定サーマルカメラによる体温チェック、1日2回の職員による施設内消毒作業等により、施設への入室について徹底管理を行い感染対策に努めた。併せて、来客や入居者家族への迅速かつ丁寧な対応を心掛けた。

アクリル板越し面会を施設内1階で通年実施し、延べ492人が来所された。

施設備品の新規購入や更新について、適切な予算執行、利益確保に努めた。

年次有給休暇、時間外労働管理として、3か月に1度集計し、労務管理を徹底した。

全職員共通

(1) 労働環境の充実

他施設と比べ、介護補助員が導入されていることで直接介護業務と補助業務（掃除や洗濯）の分担が図れており、昨年度同様介護職員の負担軽減に繋がった。

職場環境については、安全衛生管理者が毎月職場アセスメントやリスク回避のための方策（介護材料室の整理整頓等）を考え、先頭に立ち行動し、安全な労働環境の維持が出来た。食事介助が必要な入居者への介助を看護職員や機能訓練指導員が補助に入り、他職種間の連携が更に深まり、入居者がゆっくりと安心した食事が出来た。

栄養士は昼食や夕食時など喫食状況をつぶさに確認し、食事内容の見直しを図った。

生活相談員は他職種からの要望や家族との折衝について早期に対応し、職員の働きやすい環境の一助に、また施設との信頼関係の構築に努めた。

(2) 人材育成・技術向上

外部研修は WEB セミナーを引き続き受講したが、コロナの蔓延状況に配慮しながら集合研修への参加も積極的に行った。様々な施設、職種の職員との交流により良い刺激を受け、その後の業務に生かした。また、法人においては、各施設生活相談員が一堂に研修を受ける機会が度々あり、知識の習得、議論が出来、共通した認識で意識統一が出来、運営に役立つものとなった。

BCP（業務継続計画）を意識したシュミレーションを毎月行い、その経験がコロナ陽性者の発生時には食事の提供や隔離対応、まん延防止対応へと生き、新たな陽性者の発生はなかった。

福祉人材の育成の面では、数年ぶりに介護福祉専門学校の実習生2名を受け入れ、内1名が梨花の里へ就職が決まった。

(3) 地域貢献活動

コロナ禍で交流等難しかったが、状況を見て豊北こども園に訪問し、ソフトクリームサービスの行ったり、逆に梨花の里裏芝生広場においてお遊戯を披露してもらったりと交流を図った。また、山口県福祉人材センターを通じて、地元中学校（下関市立豊北中学校）での出前講座に講師として参加した。実際に働いている職員（介護職員、栄養士、生活相談員）が、「福祉・介護の仕事とは」をテーマに仕事の魅力・やりがいを伝え、梨花の里・アスピア特養施設の魅力の発信、進路選択の際の有力な候補となってもらえるように働きかけを行った。

3 職員の状況

職員数と令和4年度中における異動

職種	区分	現員 (人) R4. 4. 1	令和4年度中における異動				現員 (人) R5. 4. 1
			退職者 (人)	採用者 (人)	異動出 (人)	異動入 (人)	
正職員	施設長	1					1
	事務職員	3	2	1	1	2	3
	生活相談員	1					1
	看護職員	4					4
	機能訓練指導員	1					1
	介護職員	23	1	4	2	1	25
	介護支援専門員	(3)				(1)	(4)
	栄養士	2	1			1	2
	調理員兼務介護職員	3			1	1	3
常勤職員	介護職員	9			1		8
	調理員兼介護職員	4	1				3
非常勤職員	事務職員	2					2
	看護職員	1					1
	介護職員	3	1				2
	介護支援専門員	(1)					(1)
	調理員兼務介護職員	1					1
	介護補助員	3	1				2
	宿日直員	3					3
	嘱託医師	1					1
	合計	(4) 65	7	5	5	(1) 5	(5) 63

() の数字は他職種との兼務を示す

4 入居者の状況

本入所の状況（令和5年3月31日現在）

地域別	男性(人)	女性(人)	計(人)	令和3年度の入退所者		
				入所(人)	退所(人)	差異(人)
豊北町	7	42	49	13	14	△1
豊浦町	0	1	1	1	0	1
豊田町	2	3	5	1	1	0
その他	0	0	0	0	0	0
合 計	9	47	56	15	15	0

年齢別	男性(人)	女性(人)	計(人)	割合(%)	最高年齢 男 94歳 女 102歳 最少年齢 男 64歳 女 78歳 性別平均年齢 男 83.6歳 女 90.7歳 平均年齢 89.3歳
～70歳	1	0	1	1.8	
71～80歳	2	2	4	7.1	
81～90歳	6	21	27	48.2	
91～100歳	2	20	22	39.3	
101歳～	0	2	3	3.6	
合 計	11	45	56	100.0	

区 分		男性(人)	女性(人)	計(人)	割合(%)
食 事	自 立	5	18	23	41.1
	一部介助	4	11	15	26.8
	全面介助	2	16	18	32.1
排 泄	自 立	0	0	0	0.0
	一部介助	3	17	20	35.7
	全面介助	8	28	36	64.3
入 浴	一 般 浴	1	8	9	16.1
	特 殊 浴	10	37	47	83.9

5 実績

特養（定員60名）

延べ人数（日数×人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	実績	1,679	1,821	1,708	1,753	1,763	1,697	1,716	1,693	1,696	1,612	1,471	1,718	20,327
	利用率	93.2	97.9	94.9	94.2	94.8	94.2	92.2	94.0	91.1	86.6	87.5	92.3	92.8
令和3年度	実績	1,737	1,810	1,697	1,765	1,768	1,675	1,620	1,508	1,695	1,720	1,606	1,678	20,279
	利用率	96.5	97.3	94.3	94.9	95.0	93.0	87.1	83.8	91.1	92.3	95.6	90.2	92.6

退所について

退所者は15名（男性3名、女性12名）。施設にて看取りをした方が2名。入院先で死亡された方が7名、長期入院による退所の申し出の方が5名。他施設希望による退所の方1名。平均介護度は、3.9であった。利用は12月まで順調であったが、1・2月は次の新入所者の待機場所がコロナ陽性施設となったため入所が出来ず利用率が落ち込んだが、年間利用率は昨年度実績を上回った。

短期入所（空床利用型）

延べ人数（日数×人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	実績	38	35	62	62	69	67	62	39	9	40	83	84	650
	利用率	2.1	1.8	3.4	3.3	3.7	3.7	3.3	2.1	0.5	2.1	5.0	4.5	2.9
令和3年度	実績	27	0	4	30	12	38	20	28	56	59	53	71	398
	利用率	1.5	0.0	0.2	1.6	0.6	2.1	1.1	1.5	3.0	3.1	3.1	3.8	1.8

利用の内訳

要支援認定者の利用が1名あった。（4・8・9・10・11・12・3月）要介護認定者の利用者の中、5名が30日を超えるロングショートであった。1人は、緊急で受け入れ対応を行い、次の行き先が決まるまで家族・ケアマネジャー等と協力して支援ができた。2人はロングショートから本入所へ繋がった。他2人は次が決まっておらずショートステイを継続した。

6 研修の状況

研 修 名	日 付	施 設 長	事 務 職 員	生 活 相 談 員	看 護 職 員	介 護 職 員	介 護 支	機 能 訓 練 指 導 員	栄 養 士	調 理 員 兼 務 介 護 職 員
高齢者施設における感染制御と業務継続(Webセミナー)	4/27	1		1	1					
県老協総会・運営研修会	5/30	1								
認知症ケアを考える～寄り添いケアで幸せ笑顔をふやしませんか～	6/16					2				
介護支援専門員更新研修 7/12, 7/13, 8/27, 9/10, 9/27, 10/21	—						1			
誤嚥ケアで、食支援をもっと豊かに。 今さら聞けない、誤嚥の話。	7/6									2
接遇研修会【中堅職員向け】	7/25					1				
介護労働者雇用管理責任者講	7/25		1							
令和4年度福祉施設におけるリスクマネジメント研修(Webセミナー)	7/27					1				
認知症介護実践リーダー研修 7/26, 8/9, 8/17, 8/25, 9/5, 9/22, 10/19	—					1				
福祉職員キャリアパス対応生涯研修過程	8/3, 8/4					2				
接遇研修会(管理者向けWebセミナー)	8/10					1				
安全運転管理者講習	8/10	1								
ノーリフティング研修	9/27					3		1		
介護施設における安全対策担当者養成研修(Webセミナー)	9/28					1				

7 その他

(1) 年間の主な会議の実施結果

会議名	内容	開催日	出席者
運営会議	施設の経営状況の確認	毎月(アスピア合同)	施設長、生活課長、各部署代表、ヘルパー責任者
安全衛生委員会	労働中の危険及び健康障害の防止等を検討	毎月	
職員会議 施設内研修	事務連絡等 各種研修会	4, 6, 8, 9, 10, 12, 3月	全職員
リーダー会議	介護に関わる連絡確認 施設行事を確認	毎月	施設長、生活課長、各部署代表、ユニットリーダー
サービス担当者会議	入居者のケアプランを決定	毎月	介護支援専門員、ユニット職員、各職種代表
入所検討委員会	入所待機者名簿を作成する	6, 9, 12, 2, 3月	施設長、各職種代表、第三者委員
苦情解決委員会	苦情に関する事例報告	3月	第三者委員、理事長、施設長、生活課長、法人内の各施設の生活相談員
研修委員会	気づきを踏まえた勤務環境やケア内容の改善を検討	6, 10, 11, 2月	リーダー以外の各部署代表職員
Section meeting	入居者の状況確認ケア内容を決定	2階4回 3階4回 4階7回 医務6回 調理9回 総務1回	各部署職員
処遇に関する委員会	感染症対策委員会※	4, 6, 8, 9, 10, 12, 2月	生活課長、各フロア介護職員、各部署代表
	事故発生防止委員会	5, 8, 12, 3月	
	身体的拘束等防止・監視委員会	毎月	
	虐待防止委員会	4, 7, 10, 1月	
	褥瘡対策チーム	5, 7, 9, 10, 11, 12, 1, 3月	生活課長、リーダー以上、各部署代表
	食事内容の検討会議	6, 9, 12, 3月	
	質の評価検討会議	5, 11, 3月	
	口腔内のたんの吸引等安全対策委員会	4, 7, 10, 1月	
相談員会議	各施設の連絡、確認	2月	法人内の各施設の生活相談員

※ 感染症対策委員会事業評価について

入居者・職員共に、インフルエンザ患者はいなかった。新型コロナウイルス陽性者は9月に入居者1名が陽性となった。発生時は委員会を中心として、生活相談員は対外窓口として動き、他職員はそれぞれの役割に応じた感染対応を行った。結果、新たな陽性者は出ず、保健所の施設指導では、感染拡大対策について「今まで指導に行った施設で平時からを含め、ここまでの対応をしている施設はなかった。良く対応されています」

との言葉を頂いた。

(2) 年間行事実施結果

月	行 事	関連行事等
4	お花見（ドライブ） お花見会（施設内）	
5	春外出（ドライブ） いぎの葉だんご作り（おやつ作り）	職員検診（夜勤勤務職員）
6	らっきょう漬け（食事作り）	入所検討委員会
7	セレクト昼食	参議院議員通常選挙不在者投票 新型コロナワクチン予防接種（4回目） 害虫駆除
8	盆法要 花火（2階） 夏祭り（3階） スイカ割（2・4階） 焼肉パーティー（4階） かき氷	新型コロナワクチン予防接種（4回目）
9	防災の日（非常食） 敬老会（各階毎）	入所検討委員会
10	秋祭り（食事） 秋外出（ドライブ） 運動会（施設内） 焼き芋	入居者結核検診
11	ふぐ鍋（行事食） ほうほく文化祭出展	職員検診（全職員） インフルエンザ予防接種
12	クリスマス会（各ユニット毎） 忘年会 もちつき	新型コロナワクチン予防接種（5回目） 入所検討委員会 害虫駆除 ストレスチェック
1	元旦行事 正月遊び	下関市議会議員一般選挙不在者投票
2	節分行事 デザートバイキング	入所検討委員会
3	お茶会 彼岸法要	消火避難訓練（日中・夜間想定） 災害想定避難訓練 入所検討委員会 苦情解決委員会
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・喫茶開設（第3水曜日） ・誕生日会（毎月） ・ドライブ（適時） ・美容の日（第2月曜日） ・アクリル板越面会（通年） 	

(3) 給食の状況

区 分		エネルギー (Kcal)	材料費 (給食1日単価)	
1日当たりの 平均栄養量 及び給食単価	令和4年度実績	1,434 kcal	経口	810 円
		833 kcal	経管	1,027 円
	令和3年度実績	1,396 kcal	経口	744 円
		839 kcal	経管	1,054 円

(4) 主な帳簿

種 別	記 録 事 項
介護日誌	介護に関わる記録
施設サービス計画書	入居者ひとり一人のケア計画
個人ケース	入居者の日々の記録
看護日誌	看護に関する記録
機能訓練日誌	機能訓練に関わる記録
出勤簿	出勤時、押印する
出張命令簿	出張の際、管理者に届け出る
新型コロナに係る体温・体調記録簿	午前・午後の検温、勤務時の体調把握